

意識調査から見る言語学習センターの現状と課題

笠村 淳子*, DIOP Papa Moussa**

The Current Status and Necessary Improvements for the Language Learning Center —An Analysis of Survey Data—

Junko KASAMURA*, DIOP Papa Moussa**

要 旨

本稿は15年間ピアチュータリング（学生同士の学び合い）を取り入れた学習支援を実施している沖縄県名護市にある名桜大学言語学習センター（以下LLC）に対する学内の意識調査として平成29年6月から7月の1月間、語学講義受講者652名とその講義を担当する40名の教員を対象に行ったアンケート調査の報告である。学生に対してはLLCの利用目的、LLCの雰囲気、教材、チュータリング方法などLLCの活動に関する質問をした。教員の質問項目としてLLCの認知度、LLCとの授業連携の有無と課題の種類、およびLLCの意義深さとその理由について調査した。LLCを利用する学生の約50%は課題のためにLLCを利用しており、回答者の70%以上がLLCの雰囲気を楽しみ学習環境だと感じている結果となった。教材は課題を果たす分には十分であるが、さらに自律した学習者に魅力的な場所とするには改善が必要であることがわかった。チュータリング方法については71%の学生が多数の積極的なコメントと共に「(とても) 良い」と答えており、チュータートレーニングの効果を示唆している結果であった。一方、調査対象である全教員がLLCを認識しており、95%がLLCは100~75%意義深いと回答したが、LLCの授業連携経験者は約半数であった。この調査から全体的に学生および教員ともにLLCおよびその活動に対して積極的な意識があることが分かった。しかし、LLCが学生にさらに充実した学習支援を提供するためには全学での調査を実施し、改善すべき点を明確にする必要がある。

キーワード：学習支援センター, 学習センター, 言語学習センター, 学習センター意識調査, ピアチューター

Abstract

This paper reports on the results of a survey conducted by Meio University's Language Learning Center (LLC), which employs a peer-tutoring system. The survey was conducted in language classes between June and July in 2017 with 652 students and 40 teachers. Students were asked about their purpose for visiting the LLC, the atmosphere, materials, and their tutoring experiences, while the teachers were asked about their knowledge of the LLC, their experience giving LLC assignments, and their appreciation of the LLC's purpose. About 50% of the LLC student users utilized the LLC for their assignments, yet over 70% of them answered that the LLC had a fun and good atmosphere for studying. It was found that the materials were sufficient for the assignments, but might need to be improved for self-study learners. Tutoring methods

* 名桜大学リベラルアーツ機構 〒905-8585 沖縄県名護市為又1220-1 University Center for Liberal Arts Education, language Learning Center, Meio University 1220-1, Biimata, Nago, Okinawa, 905-8585, Japan.

** 名桜大学国際学群 〒905-8585 沖縄県名護市為又1220-1 Faculty of International Studies, Meio University 1220-1, Biimata, Nago, Okinawa, 905-8585, Japan.

were highly appreciated, with several comments that implied the positive effects of the LLC's tutor training program. A majority of teachers believed that the LLC is significant, with 95 % ranking it from 75-100% on a 5-point scale, although only half had ever given an LLC assignment to their classes. The results were generally positive, though more feedback is needed in order to improve in the future.

Keywords: learning support center, learning center, language learning center, survey for the learning center, peer tutor

I. はじめに

大学ユニバーサル時代はついに高卒者の大学進学率（現役）49.6%（文部科学省2017）に達し、学力上位層の学生を獲得できない大学では、高校までの常識的な知識および技術を習得していない学生たちの受け入れをせざるを得ない時代となっている（木村2017）。実は米国ではすでに大学のユニバーサル化を経験し、その結果、1960年代ごろから教育の質を保証する手段とした学習センターの開発が進んだ。特に、学生が学生を支援する「ピアチュータリング」による学習支援を行う組織としての学習センターが誕生した（鈴木2011）。学生による学習支援者（以下ピアチューター）の存在は、学習支援を受ける側（以下チューティー）にとって最も身近な存在である（渡邊、鈴木2014）ため、教員とは違った「仲間」あるいは「助けてくれる友人」の感覚で接することができる。3つの学習センターで実際にピアチュータリングを実践している米国のブリガム・ヤング大学ハワイ校を調査した渡辺ら（2014）は、学生自身が他の学生を支援するピアチュータリングを経験することで「学習者と学習支援者の両方の成長を促し、ひいては、学生全体の学習経験の豊富化および質保証に貢献するサイクルが築かれている」可能性があるとして述べている。チューターが適切な支援の仕方、すなわち「学生の疑問や質問に対し、アドバイスあるいは答えを見つけられるように導くこと（椿本2012、津嘉山2011）」の技術を習得することで、このシステムをより円滑に進めることができる。米国の学習支援関連の学協会であるCollege Reading and Learning Association（以下CRLA）はチューターの必要とされる資質や基礎的なスキル養成のためのチューター育成プログラムに対する認証システムを開発し、提供している（鈴木2011）。

沖縄県名護市にある名桜大学の言語学習センター（Language Learning Center:以下LLC）は、このチューター育成プログラム（International Tutor Training Program:以下ITTP）を2002年に日本で初めて導入し、更新継続で現在までそのプログラムを土台としてLLCを運営している。

さらに、LLCでは学習支援だけではなく、学生の自律学習者の促進のため自主学習スペースを設けてあり、語学学習に役立つ教材としてレベル別リーダー、参考書、DVD、CDなどを揃えている。

LLCは15年間の歴史の中で、利用者から個人的に積極的なフィードバックや授業連携した教員からの評価を受けることはあったが、実際に学内でどのように認識されているのか、また、どのように効果があり、何を改善すべきかを知るための本格的な意識調査は実施されてこなかった。その試みとして平成29年6月から7月にかけて、語学講義受講者の652名と教員40名にアンケート調査を実施した。本稿では、その調査の実施および報告をする。

II. 方法

(1) 研究方法：質問紙調査

1. 学生用質問紙調査

2016年10月に試験的にLLCを利用する学生を対象に82名にパイロット調査を行った。その結果を踏まえ、いくつかの加筆修正後、回答者情報（選択）が5項目とLLCに関する質問10項目を二選択および複数選択肢で設け、それに対する7項目のコメント式回答を加えて合計22項目の質問の調査書を作成した。質問内容として、LLCの利用目的とその頻度、受付対応、チュータリング、LLCの雰囲気、ワークショップ、およびリクエストなどである。回答方法は紙媒体およびオンライン回答の二つの方法を使用した。オンラインによる調査書はGoogle Formを活用した。データ保管についてはGoogle FormからCSV（Excel data）に変換した。

2. 教員用質問紙調査

教員用として選択設問が5項目、コメント式回答が2項目の合計7項目である。質問内容としてLLCの認知度、LLCとの授業連携の有無と種類、およびLLCの意義深さとその理由について質問し、最後は要望の欄とした。

(2) 調査対象者

全学2,052名（名桜大学ホームページ）中、2017年度前期の語学授業を受講した652名の学生とその授業を担当した40名の教員にLLCに対する意識調査を実施した。学生回答者652名の内訳は表1のとおりである。科目講義は2017年度前期に提供されている語学講義61中の40の講義で実施した。表1で分かるように回答者は1年次が最多となっている。これは英語が1年次の必修科目であることや専門の科目に特化する3年次になる前に選択科目である外国語を受講する学生（2年生）が多く、カリキュラムの影響から来るものと考えられる。

表1. 回答者内訳

学年	一年次	二年次	三年次	四年次	その他
回答者数	347	199	57	20	29
%	53	31	9	3	4

(3) データ収集について

データ収集方法として、あらかじめ全学メールにてLLCの意識調査を実施することを周知し、数名の教員は各語学講義の中で実施を依頼し、非常勤講師の講義に関しては担当者が直接メールで依頼および時間割を調整後、当日教室に向き、講義の始めあるいは終わりの5分から10分間で受講生および教員の両方にアンケートを実施した。複数の語学講義を受講している学生の場合は重複を避けるためにアンケート回答は1名1回限りとした。

(4) 倫理的配慮

調査書の始めに調査の意義と調査結果の取り扱い説明文を付加し、各講義でアンケートを実施する場合は直接調査の意義を口頭で説明し、同意を得た学生あるいは教員に調査を行った。

Ⅲ. 結果と分析

(1) 学生アンケート結果と分析

652名の回答者を得たが、設問によっては該当しない、あるいは回答していない学生がいたため、全てのデータが652名になっていない。しかしながら全体の傾向を知るには十分なデータだと考える。本稿ではアンケートで得た全ての回答ではなく、LLCの利用目的、雰囲気、教材、チュータリングの方法の4つの項目を採り上げることでLLC利用者への認識を確認する。

1. 利用目的

図1によれば学生がLLCを利用する主な目的は課題が49%、自主学習18%、チュータリングが15%となっているが、設問が複数選択可能となっているため、チュータリングや自主学習も課題の一部であるにも関わらず重複して選択している可能性が高い。また自主学習は主に多読多聴のための読書課題、DVD視聴、あるいはCDのリスニングなどの課題である場合もあり得る。そう考えると、学生はLLCを語学力向上を目指した個人学習よりも課題を果たす場所として活用することが多いという結果が見える。

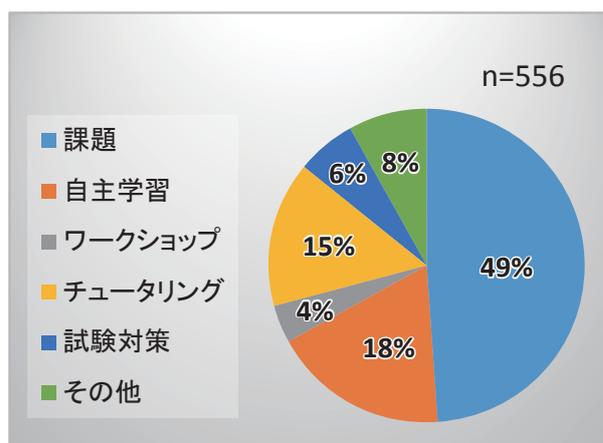


図1. LLC利用目的

2. LLCの雰囲気について

LLCの全体の雰囲気に関する回答は全体（回答者652名）の70%以上である467名が「(とても) 良い」と答えており、ごく少数の学生から消極的な回答を得た結果である。その結果の理由として表2のコメントでさらに詳しく見ることができる。

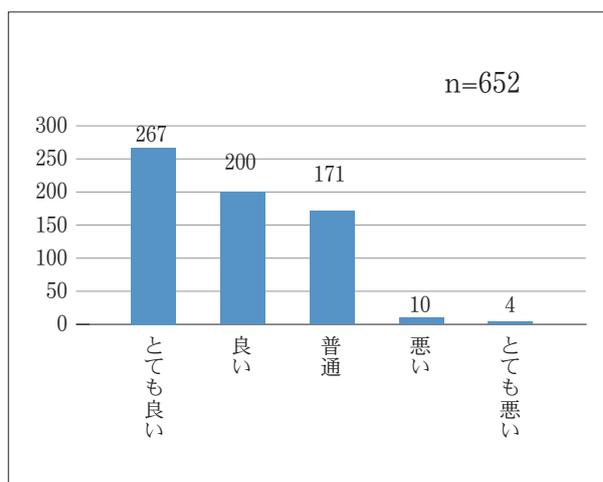


図2. LLCの雰囲気について

表2は雰囲気についてのコメントであるが、類似したコメントはまとめて分類した。上部に積極的なコメント、下部が消極的なコメントとなる。積極的なコメントには「フレンドリー（楽しい）」が13件と最も多く、次に「(学習に) 静かに集中できる (場所)」が11件であった。「語学向上が高まる」とのコメントも5件あった。興味深いのは雰囲気として「仲間の一致が感じられる」が3件あったことだ。これはLLCで働くチューターたちの一致、すなわち協働している雰囲気が利用する学生に伝わっている結果であると考えられる。消極的なコメントは少ないが、実際にLLCに「入りづらい（6件）」あるいは「外国人が多くて行きにくい（3件）」と感じている学生がいることが明確になった。

表2. LLCの雰囲気について

LCC 雰囲気についてコメント	件数
フレンドリー（楽しい）	13
静かで集中できる	11
入りやすい	4
よい	5
語学力向上心が高まる	5
楽しい	3
くつろげる（落ち着いている）	2
仲間の一致が感じられる	3
清潔	1
LLC 大好き	1
小計	48
入室しづらい	6
外国人が多くて行きにくい	3
長いしづらい	2
チュータリングは別室が良い	2
スポ健は入りづらい	2
小計	15
わからない（該当外）	5
合計	68

3. 利用されている教材と満足度

LLCで活用されている教材について、書籍とPCそしてDVDの順に活用度が高いが、PCを使用する目的は、ほとんどの場合課題としてのDVD視聴あるいはeラーニングに使用されていることが多い。また書籍に関しては、課題である多読の利用が多い可能性が高い。

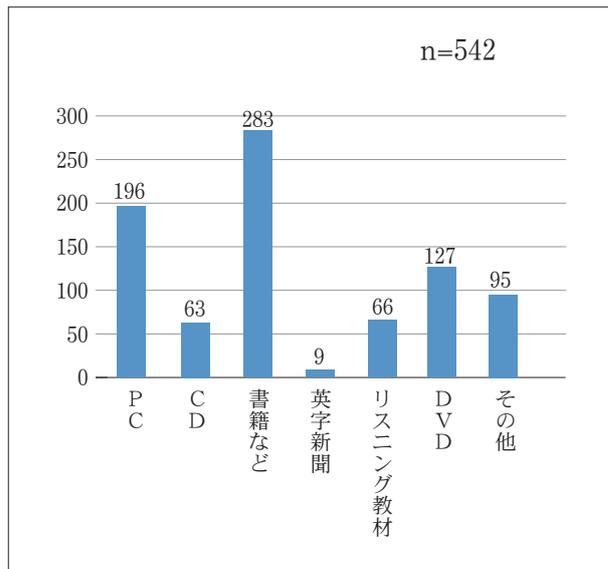


図3. 利用する教材

使用されている教材に対する満足度として、回答者の62%である405名が「(とても) 良い」と回答しており、半数弱の学生が「普通」あるいは「(とても) 悪い」と回答している。この回答についてのコメントを設けなかったため、理由は推測となるが教材の貸出に制限があることや教材に対する認知度が低い、つまりLLC側の教材への宣伝が不足していることが原因と考えられる。

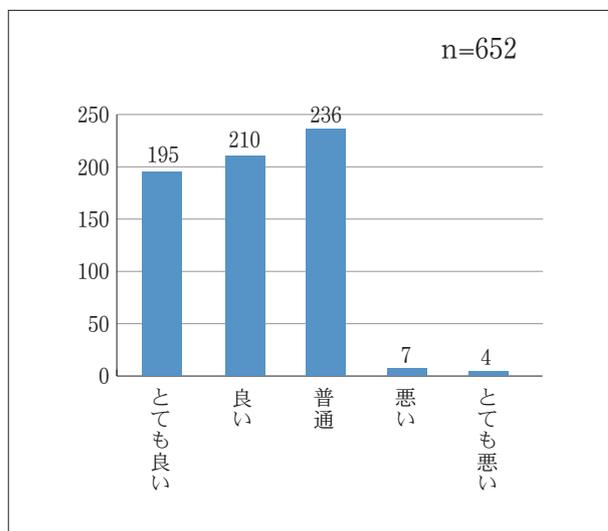


図4. 教材について

4. チュータリングの満足度

学生チューターが1対1あるいはグループで学習支援を行うチュータリングには、外国語の会話練習、プレゼンテーション、読解や英文添削などがある。今回の調査では約半数の回答者51.2%が「チュータリングを受けたことがある」と答え、「チュータリングの方法についてどう思いますか」という質問に対し71%（538名中383

名)が「(とても)良い」と回答した(図5参照)。「普通」が26%,「(とても)悪い」が2%となった。

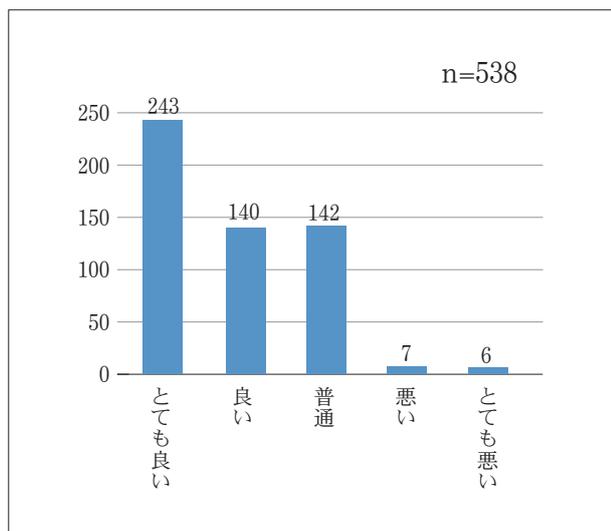


図5. チュータリングの方法について

チュータリングに対するコメントは類似したものも多数あったため表2のように分類し、表3とした。表3も表2と同様に上部が積極的なコメントとなっている。「わかりやすい」のコメントが20件と最多であり、次に「丁寧・親切」となっている。「わかりやすい」の具体的なコメントとしては「答えに詰まった時、助けてくれる」や「自分のレベルに合わせて話してくれる」、「質問に答えながらわかりやすく教えてくれる」などがあった。9件のコメントがあった「チュータリングのスキルがある」については、「自分で考えさせるようにする」、「チューターが準備してくれている」、「声かけをしてくれるので意欲が湧く」などがあった。この結果はチューター達がトレーニングで実際に学んでいる基本的なチュータリングのスキルを現場で応用している可能性を示唆している。

消極的なコメントで「日本語の説明が不十分」とあるが、これは日本語学習者である留学生のチューターが対応した可能性が高いが、英語力の差によって生じた結果だと考えられる。「教え方がうまくない」「チューターによって差がある」などのコメントからは、トレーニングの効果が及ばないチューターが存在する、あるいはチューターとチューティーの学び方の相性が違うことも考えられる。「初心者に向けてもっと工夫がほしい」と言うコメントは1件ではあるが、LLCが学習センターの意義であるリメディアル的な支援を必要としている学生対応を強化しなければならないこと思い起こさせるコメントである。

表3. チュータリングの方法について

チュータリングについてコメント	件数
わかりやすい	20
楽しい	4
丁寧・親切	16
外国語を学ぶ意欲を向上させる	2
チュータリングのスキルがある	9
親しみを持てる(フレンドリー)	3
良い	2
小計	56
教え方がうまくない	1
日本語での説明が不十分	2
チューターによって差がある	1
初心者向けにもっと工夫がほしい	1
予約したチューターではなかった	1
小計	6
関連のないコメント	5
合計	67

(2) 教員アンケートの結果

次に、学生アンケートに協力をいただいた教員40名に教員のLLCに対する認知度、授業連携の有無と種類、そしてLLCの意義とその理由について結果を報告する。

「LLCについてご存知ですか?」という設問に回答者40名全員が「はい」と答えたが、実際に授業連携でLLCを活用した教員は40人中26名だった。授業連携の課題は、教員によるLLC課題依頼申請書(LLCで保管)を提出することでどのような課題が出题されているのかチューター達と情報共有し、スムーズに運営されるシステムになっている。授業連携の課題は図6に示すとおり、チュータリング課題としての「会話練習」が多く、続いて「その他」となっている。今回の回答選択肢に「教材利用のため」の項目が設定されていなかったため、授業連携の課題申請書の資料から、「その他」の事項には多読のための書籍利用も含まれている可能性がある。

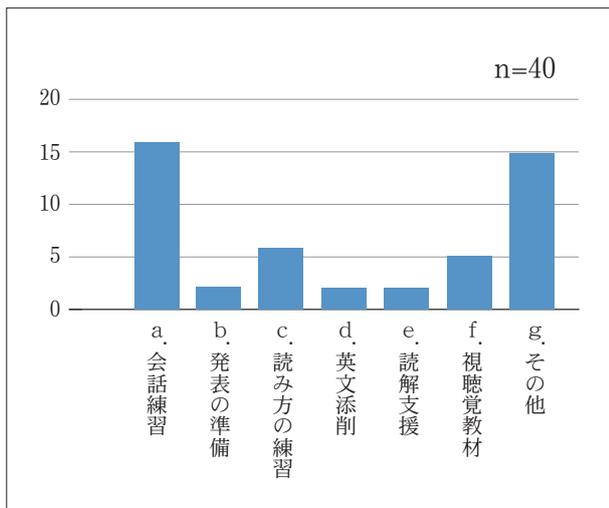


図6. 授業連携の課題の種類

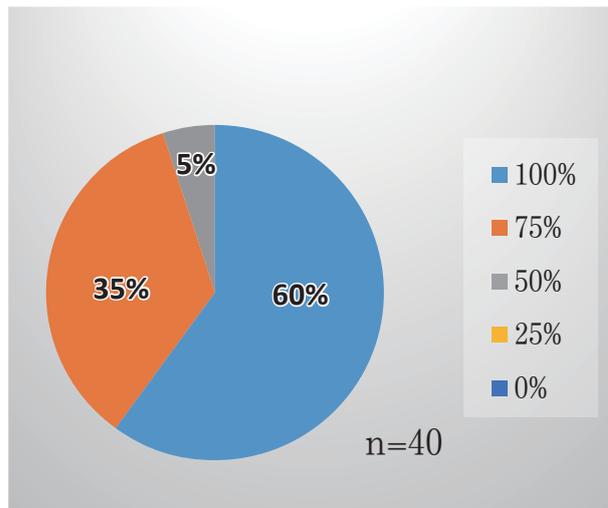


図7. LLCの意義について

「LLCは学生にとってどのくらいの意義があると感じますか？」の質問に対し、40人中38名が「100%から75%」意義があると回答した（図7参照）。

さらにLLCの必要性については40名全員が必要であると感じており、その理由について表4にまとめた。

表4. LLCが必要な理由 ※英語のコメントは筆者が翻訳

1. いろいろな授業があるので、今学んでいる語学に加え、LLCを通して他の言語にも興味を持つことができるのではと考えます。
2. 語学力だけではなく、文化に触れる場所でもあると思う。
3. 名護には大学の補助的なダブルスクールがないため。
4. 大学における外国語習得の雰囲気作りに最適な環境であると考えます。
5. 自学自習の機会が増える。モチベーションアップ。
6. 韓国語の場合、1クラス35名以上なので授業でみんなが練習できないところも多いと思います。その際LLCの中だと一緒に会話の練習ができれば学習に役立つと強く考えております。
7. 支えあって学ぶことに意義がある。
8. やはり留学生の学習に大変役立つと思うからです。
9. 教材を使って自習ができるから。
10. 学生主体で活動できる素晴らしい学びの場であるため。
11. 学生が多角的に言語を学習できるチューター制がよい。
12. 英語の得意な学生や留学生の受け入れの場所にもなっており、まあ英語学習を学生間でできる場所となっている。
13. 教室内だけの学習では不十分だと思いますのでLLCと言う教育機関が必要だと思います。
14. 特別な場所です (It's a very special place)
15. 名桜大学に入学する多くが語学力を伸ばしたいというニーズがあるので。
16. 学生にとっても助けになる場所だから。(9件)
17. コミュニケーションの場である
18. 英語が苦手な人にとって大切だから。(2件)
19. 英語を学ぶことは大切だから。
20. (LLCが) あると名桜大学全体の英語力が上がると思うから。(2件)
21. 学生にとって学生支援を受けられる場所が必要だから。

教員のコメントからは、リメディアル効果的な意味でのLLCの必要性、異文化交流の場、ピアチュータリングの実践の場、学生主体の学びの場、留学生の受け入れ場所など幅広い意味でLLCが必要であるとの意見が寄せられた。LLCが学生にとって有益だという教員の意識は大きい結果となった。

IV. 考察とまとめ

アンケート結果から、LLCは学習センターとして積極的に認識されており、特に利用したことのある学生はLLCへの高感性が高い学生が多いことが分かった。教員もLLCは学生の語学学習および異文化交流の場、そして留学生の受け入れ場所として意義深い存在であると認識している結果となった。次にそれらの結果について考察する。

(1) 利用目的

LLCの利用者全体の約50%は課題で利用している。授業連携でLLCが活用されることは、学生が課外授業として個人の学習を深める上で最適なシステムであり、LLCの利用者数確保にとっても評価できることである。しかしながら、LLCをさらに高い目標である「自律した学習者を育成する場所」にするためには、授業連携でLLC活用を経験した学生が、次回から個人の語学力向上のための自主学習としてLLCを利用したいと思わせるような学習センターを創っていく必要を感じる。

さらに、授業連携の課題においては、学生自身がその科目から学ぶべき知識、あるいは能力をLLC活用によってどのくらい向上させているかを測定できていない現状がある。今後はLLCの効果をさらに明確にするために、個人情報保護しながら授業連携でのLLC活用効果の測定を可能にする方法を研究していく必要がある。

(2) LLCの雰囲気

LLCを利用する70%以上の学生は、LLCの雰囲気が「(とても)よい」と回答しており、特に「楽しい場所」「仲間の一致が感じられる場所」とのコメントからLLCチューターが教員と違って「身近な存在」であることでその場所の雰囲気作りに大きく貢献している可能性は否めない。

しかしながら「入室しづらい」と感じている学生も存在し、改善する余地がある。「外国人が多くて行きにくい」のコメントからは、異文化交流が苦手あるいは語学学習に対して積極的でない学生のコメントである可能性が高い。実際にアンケート調査で挙がることはなかったが、筆者自身の見聞でLLCはほとんど英語で運営されているため、英語や語学に対して苦手意識のある学生に

としては敷居が高い、すなわち「入りづらい」印象があるとの声をしばしば耳にする。LLCが学習センターの主な目的のひとつであるリメディアル教育支援を強化するためには、語学に対しての苦手意識が強い学生ほど「入りやすい」環境づくりが求められる。

(3) 教材について

教材に対しては授業連携の課題を果たす分には支障がないようであるが、実際は教員がLLCの教材に合わせて課題を出題している傾向が強いのが事実である。さらに学生の個々の語学力向上を図るため、教員側からの講義に合わせた学生のニーズを中心とした語学教材のリクエストを実際にLLCに揃えることにより学生の能力を伸ばす支援ができれば、個々の学生の語学力向上の支援に繋がると考える。それを実現させるためには、専任講師と外国語を担当する教員との円滑なコミュニケーションと連携が不可欠である。

(4) チュータリングについて

チュータリング経験者の71%の利用者がチュータリング方法に対して「(とても)良い」と回答した。コメントからは、チュータートレーニングの効果がチューター達の実践現場に実際に反映されている結果と考えられる内容が多かった。今後はチュータートレーニングの効果測定の研究の推進と利用者へのアンケートを継続することで、ピアチューターを活用した学習センターの効果をさらに明確にする可能性が期待できる。

V. おわりに

今回の意識調査でLLCは利用学生にも教員にも言語学習支援センターとして積極的に認識されていることが分かった。特にチュータリングに関しては、チュータートレーニングの成果が反映している可能性を示しており、今後さらにチューター育成に関する効果指標の研究を進めることで学習センターとしてのLLCの効果検証の可能性が期待できる。

一方、今回の調査は語学講義受講者の学生のみへの実施だったため、実際に語学講義を受講していない学生や語学に対して苦手意識の強い学生の声が反映していない可能性は高い。効果的なリメディアル教育支援の実施を実現させるためには、今後はこのような学生の声を反映させる調査方法の実施が求められる。

謝 辞

このアンケート調査の実施にご協力いただいた平成29年度前期の英語と第二言語の語学講義担当教員（非常勤

を含む) 40名の皆様と受講生652名の学生に心からの感謝を申し上げます。

引用文献

木村堅一 (2017) : 平成29年度第1回リベラルアーツ機構FD研修会「リベラルアーツ機構三学習センターの現状と活用策」, p.1.

鈴木克明, 美馬のゆり, 山内祐平 (2011) : 大学授業の質改善以外の学習支援にどう取り組むか : 学習センター関連資格制度についての米国調査報告。日本教育工学会研究論文集 11-1 : pp.181-186.

津嘉山淳子 (2011) : 名桜大学言語学習センターチューターハンドブック, 名桜大学言語学習センター, p.13.

椿本弥生, 大塚裕子, 高橋理沙, 美馬のゆり (2012) : 大学生を中心とした持続可能な学習支援組織の構築とピア・チュータリング実践, 日本教育工学会論文集 36 (3), p.325.

名桜大学ホームページ (2017), 大学案内, <http://www.meio-u.ac.jp/guidance/students.html> (閲覧日2017年8月31日)

文部科学省 (2017) : 報道発表, 平成29年度学校基本調査(速報値)の公表について, http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2017/08/03/1388639_1.pdf (閲覧日2017年9月22日)

渡辺雄貴, 野田啓子, 鈴木克明, 美馬のゆり (2014) : ピアチュータリングによる学習支援システムの構築に向けてーブリガム・ヤング大学ハワイ校の学習支援組織調査を例にー, 日本教育工学会研究報告集, pp.295-298.

渡邊浩之, 鈴木克明, 戸田真志, 合田美子 (2014) : チュータリングガイドラインの開発と形成的評価について, リメディアル教育研究, 9-2 pp.47-58, pp.161-172.